

教信寺の五輪塔

きょうしんじのごりんとう



文化財愛護シンボルマーク

名称	教信寺の五輪塔	所在地	加古川市野口町野口465 教信寺開山廟内
別称	教信寺の石造五輪塔、教信寺の開山廟五輪塔、教信寺の開山五輪塔、石造五輪塔	所有者	教信寺
数量	1基	指定	兵庫県指定文化財
法量	高208cm	指定分類	建造物
材質	石造、花崗岩製	指定名称	石造五輪塔
時代	鎌倉時代末期、元亨3年(1323)頃	指定年月日	昭和51年(1976)3月23日



教信寺の五輪塔

旧山陽道を加古川の市街地の低地から西へ約2 km、いなみ野台地に上がってしばらくのところに教信寺の伽藍があります。教信寺は、平安時代の念仏聖である教信沙弥が暮らした草庵の跡に建てられたと伝えられています。

教信は、賀古の駅家の北に庵を結び、世俗の中で人々を助けながら一生、念仏を唱え続け、貞観8年(866)にこの地で一生を終えたと伝えられています。専修念仏の先駆者として、鎌倉新仏教の親鸞や一遍も教信のことを先達と仰いでいます。

寺記によると、元亨3年(1323)に、一遍の弟子の湛阿が勧進となって、野口の大念仏をはじめ、教信の廟墓を建立しています。

この五輪塔は、この時に造立されたものと考えられる花崗岩製の七尺塔で、現在は、境内西側の開山廟所内に東面して建っています。正面はよく整っていますが、塔身を除き各部の背面は大きく損傷しています。しかし、この七尺の大塔は、正面観をよく保ち、開山の供養塔としてふさわしく、堂々とした風格があります。

基礎は四面素面。塔身は、水輪の正面だけにキリク(キリク／阿弥陀如来)を刻んでおり、その手法は薬研彫りで古調を帯び、他の三面は素面です。笠は、屋根の勾配が急で全体に強く反っています。また、請花と宝珠は、空輪と風輪を一石で彫成しています。

なお、五輪塔とは、基礎、塔身、笠、請花、宝珠から成る石造品で、それぞれ、地、水、火、風、空の密教の五大輪を表しているといわれ、堂宇の落成、仏像の開眼、死者の追善などの供養塔婆として造立されています。

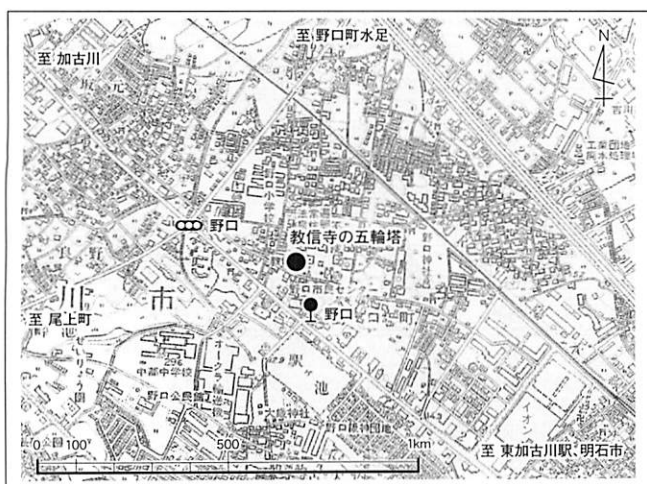
この五輪塔と同じ時期仏像として、教信寺開山堂に教信の頭部像が安置されています。

教信寺の開山廟所に建つこの五輪塔は、教信の遺徳と、当時の人々の教信に対する信仰の篤さを伝えるものとして、また、この地域を代表する鎌倉時代の五輪塔として貴重なものです。

(拓本／『加古川市史 第7巻』から転載、文・写真／宮本)

[各部法量]

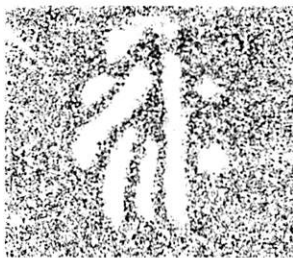
宝珠…高56cm 笠…高44cm・幅70cm
塔身…高56cm・径73cm 基礎…高52cm・幅76cm



教信上人御廟所



教信寺山門



種子拓本

[銘文]

キリク
(キリク)

●参考文献

- 『加古郡誌』加古郡役所(1914年)
- 『兵庫県大百科事典』神戸新聞出版センター(1983年)
- 『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)
- 『仏と神の美術(図録)』加古川総合文化センター(2002年)

●キーワード

建造物、五輪塔、教信、教信寺、開山廟、親鸞、一遍、湛阿、花崗岩、種子、七尺塔

- 所在地／加古川市野口町野口465
教信寺教信上人御廟所内

- 交通／JR加古川駅「明石駅」行神姫バス「野口」バス停から北へ徒歩2分
車は加古川バイパス「加古川東ランプ」から西へ1 km